

地方博物館のホームページ展開戦略

宇仁義和*

はじめに

この数年、インターネットが一気に普及し、ホームページを持つ博物館も増えてきている。地方博物館でも導入が進んでいるが、トップページに巨大な画像データを置いている例や何か月も更新されないページがあり、また館によっては構想段階から実現への具体化が進まない事例、あるいは技術的問題などで担当者が苦慮している場合もあるようだ。そこで、知床博物館の公式ホームページの実践例を紹介し、地方博物館でのホームページの役割と可能性について述べてみたい。

なお、本論は、北海道立社会教育総合センター「かでの2・7」で行われた平成11年度「博物館・郷土資料館経営専門研修」での事例発表と討議をもとに新たにまとめたものである。

1. 知床博物館のホームページ

当館がホームページ開設に踏み切った大きな理由は、知床博物館の「公式ページ」の必要性だった。実は、ホームページ開設以前から、観光案内のページや個人が運営するページなどによって当館の情報がインターネット上には存在していたのである。外観写真や利用案内が掲載され、あたかも当館のホームページのように見えるものもあった。ためしに日本の代表的検索サイトであるNTTgoで「知床博物館」を調べると、148件が該当する(2000/2/9現在)。その多くは、当館以外が運営するページなのである。

このような状況のなか、「あなたの館のページを見たが、ほとんど何も載ってないね」と言われることもあり、インターネットの世界では、職員知らないところで情報が行き来している実態を思い知らされた。

そこで、責任ある情報提供を目指し、公式ホームページを開設することとなった。

・トップページ

当館のページは、すべて学芸員が業務の一環として作成にあたる、いわば手作りのページで、基本的な技術のみを使い、文字情報主体のシンプルな構成としている。トップページは、検索可能な文字情報(テキスト・データ)を主体とし、他ページへの目次を兼ねている。(図1)

バナーは使用せず、画像は小さい写真(14kb)が1点のみ、ページ全体の容量は16kbである。タイトルはページ上部に収め、画面上により多くの情報が表示できるようにしている。

トップページのデザインの見本としては、目次を配列した週刊誌の吊り広告や女性雑誌の表紙があるだろう。バナーや飾り文字はページを華やかにし、個人が趣味で運営するページには欠かせないものだが、情報伝達を主眼とする博物館のページにとっては、利用価値はさほどあるとは思えない。また巨大な画像データは読み込みにかかるので最初のページには禁物である。

・行事案内・報告

ホームページの利点のひとつは、広報紙などでは困難だったカラー写真が使えることである。そして速報性はどのメディアもかなわない。行事の案内は、開催が決定されればその場でパソコンから書き込みをしている。

当館では特別展を年1回開催し、そのほかロービー展を5~6回開催している。講座は毎月あり、講演会も年4~5回開催している。しかし、その報告となると部内記録で終わっていた。年報の記載もごくわずかの分量で、当然カラー写真は使えない。特別展の図録以外は何も残るものがなかったのである。

* うに よしかず 斜里町立知床博物館学芸員



図1. 知床博物館のトップページ。見出しの多くは下位のページにリンクしている(下線部分)。

ところがホームページでは、開催した展示や行事もカラーで記録し、多くの人の閲覧が可能である。しかも音声や映像も残すことができる。行事報告のページには写真を多く使用しているが、ここには目的を持ってアクセスすると想定され、ある程度の読み込み時間は許容されるだろう。主要な行事には別ページにリンクを張り、詳しい解説や報告を用意している。上映したアイヌ文化の映画の解説、開館20周年を記念した歴史フォーラムの報告ページなどを作成した。

ホームページには、思い入れを持って開催した展示や行事の様子が、いつでも取り出せる形で保存できる。これは学芸員個人にとっても大きな収穫だろう。

・郷土学習情報の提供

地方博物館への期待は中央の博物館などとは異なるはずである。たとえば研究者の便宜をはかるデータベースの作成(平塚・柴、2000)などは地方博物館の主要な役割ではないだろう。期待され

る内容は、もっと地域的なもの、具体的な情報だ。しかもホームページという特性を活かすならば、市販の書籍からの転載でもったいない。

郷土学習に必要とされる情報の多くは、他の地方では省みられることの少ない内容である。集落の古老の話や農業開拓の功労者などは、百科事典や人名事典に載るはずもなく、通常は自治体史でわずかに記される程度であろう。そんなマイナーな情報でも、その地方の住民であれば必ず知っておくべきという知識がある。必要とする人数や範囲は限られているが、必要性は極めて高いというケースである。それは出版される機会もないまま埋もれて行く貴重な文化遺産である。自然の分野では、身近な動植物や地域ならではの気象条件などがあてはまるだろう。

ホームページは、このような情報を提供するのにも最適なメディアである。世界に情報を発信できるインターネットが、地方博物館としては、限定された地域を対象にした情報を伝えるメディア

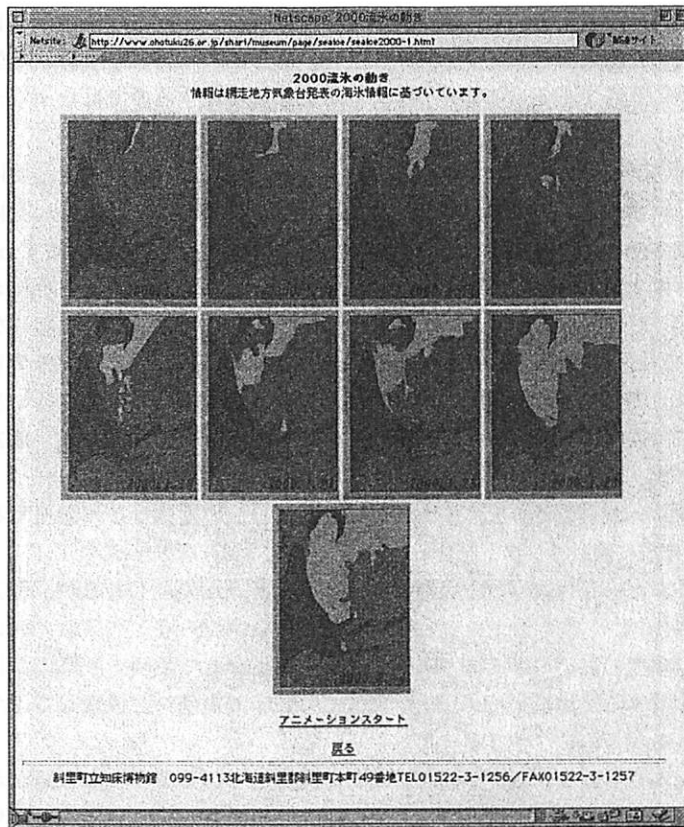


図2. 2000年の流氷情報の画面。アニメーションで表示するページもある。

としても活用できるのである。

・流氷情報、新着資料

当館では、観光資源ともなったオホーツク海の流氷について網走地方気象台からの情報提供を得て、1983年から現在までの普及用の「流氷情報」を作成してきた。これまでは館内ロビーでコンピュータ展示としてきたが、ホームページに「流氷情報」を設け、過去に作成したものを含め公開した(図2)。これは過去17年間分流氷の動きが動画・静止画野の両方で見ることができる。もちろん毎日気象台から送られてくる今年の情報もその都度ページを更新している。

このほか自然の分野では、「動物豆知識」として知床のエゾシカの鳴き声、斜里市街地に住むモモンガの暗視カメラによる巣内映像などを掲載している。ここ数年マスコミでも盛んに報道されたワシ類の鉛中毒についても、当館でのオジロワシ・オオワシ保護状況やレントゲン写真を掲載し、独自の解説を加えている。「新着資料：魚類編」、

「保護動物」のページなどもある。

歴史・民俗分野では、町民などから寄贈を受けた「新着資料」の写真を載せ、歴史的背景を含めて解説したページを設けている。

・インターネットで唯一の情報

当館のページのほとんどは、知床の自然と斜里町の歴史に関する話題の提供や解説を目的としたものである。これらは独自資料やデータにもとづくもの、普及活動として独自の工夫を加えたページであるが、インターネットの世界では唯一となる情報が多数含まれる。そして、オリジナルなページがどれだけ蓄積されるかが、地方博物館のホームページの存在価値にとって重要な条件であると考えられる。

たとえば検索サイトで「知床」を検索すると6,500件以上が該当する。このような膨大な検索結果から、当館のページが選択される可能性はきわめて低い。一般的な内容のページでは、インターネットの世界では埋もれた情報となってしまう。

しかし「知床 カタツムリ」として、この両方の単語を含む条件で検索した結果はどうだろうか。該当するページはわずかに6件である。この中からであれば、知床のカタツムリを調べようとした利用者は、「知床博物館研究報告」のページにアクセスすると期待してよいだろう。この知的欲求にいくらかでも応えうるページを用意できたことで、責任を果たしたとも考えられるだろう。

2. 作成と運営体制

・作成ソフトはワープロ、デジカメは必需品

ホームページの作成には通常のワープロ・ソフトを使用している。その他、簡単な画像の変換などでフォトレタッチ・ソフトが必要である。また、まれに表を使ったページ作成に表計算ソフトを使っているが、いわゆるホームページ作成ソフトは使用していない。

機器面では、最も使用頻度の高いのがデジタルカメラである。当館の位置する北海道東部の田舎町では、スライドができあがるのに2泊3日の時間がかかる。ネガフィルムであれば、地元業者でプリントまで可能だが、半日程度の時間が必要となる。このような条件では、その場で撮影画像が確認できるデジカメはことのほか重宝する。これがあればその日のうちに行事の報告を掲載することができ、ホームページ運営には必需品といえるだろう。

その他、フラットヘッド・スキャナ、そしてできればフィルム・スキャナもあると過去に撮りためた写真を資産として利用できる。コンピュータ本体は、PowerMacだが、テキスト・データの更新は旧型Macintosh (LC630) を使っており、5年前の機種でも十分使っているのである。

・ISDNにルータで接続

通信回線と接続方法は、ISDNにルータを使って接続している。ISDNはよいとして、接続方法をターミナル・アダプタ (TA) にするか、ダイアルアップ・ルータ (ルータ) のどちらがよいかと質問を受けることがあるが、迷わずルータにすべきである。館内のコンピュータがネットワーク (LAN) でつながっているのであれば、ISDNとルータの組み合わせによって、どのコンピュータからも接続が可能になり、同時に複数台の接続もできる。そしてTAに較べて接続までの時間がは

るかに少なく、待ち時間のストレスがほとんどない。もしISDNにTAで接続したならば、受けられる恩恵が半減するのではなからうか。

・サーバは持たなくてよい

サーバは自前で用意する必要はまったくない。当館のホームページも、自治体などで構成する「オホーツク委員会」が運営するサーバを利用している。注意したいのは、ホームページの作成技術はワープロを打つと変わらないが、サーバの管理には高度に専門的な知識を要し、セキュリティ・チェックなど抱える課題も多いということである。ここまで自前でこなすには、地方博物館には荷が重い仕事であろう。

なお、他の団体などが管理するサーバを利用する場合、ホームページのアドレス (URL) が長くなるという欠点もあるが、現実の運営で障害にはならないだろう。当館のアドレスも長いものだが、電話などで説明する際には「Yahoo! JAPAN で<知床博物館>と検索してください」と答えている。

関連してこのような声も聞かれる。「博物館の紹介は市のホームページにあるが、まだ自前のホームページは開設していない」というもの。これはある意味で誤解である。この既存のページをトップページらしくデザインし、リンクを張れば、そこがホームページに生まれ変わるのだから。

・更新は職員が直接すること

地方博物館では学芸員の人数は1人から数名という場合がほとんどだが、その場で更新が「快適に」できる環境、つまりISDNとルータが用意されていれば、さほど困難なことではない。起案文書や報告よりも、ずっと気軽に作成できるものだ。更新作業を自前で行うよい点は、結果をその場で確認できることだ。なにか伝えたいと思ったら、その時に書き込みや更新をすれば時間もかからない。ホームページ閲覧ソフトで結果を確認しながら作業をするので、満足いくまでデザインもできる。

ところが作業を委託しているとページの更新にタイム・ラグが生じる。ましてやフロッピーでのデータ受け渡しとなれば、いきおい面倒になり、ページは古いまま放置される事態につながりやすいだろう。

・検索サイトの有効利用

現在、インターネット上には無数のページが開

かれているが、膨大な情報の海から必要な内容を抽出するのが「検索サイト」(サーチエンジン)である。日本語の検索サイトでは、Yahoo! JAPAN、NTTgoo、LYCOSなどが代表的なものだ。インターネットは巨大なデータベースだといわれるのも、このサイトの存在があつてのことである。検索対象は、トップページだけでなく、下位のページも含まれる。またページのタイトルだけでなく、含まれるすべての単語が検索対象となる。そのため検索サイトからアクセスする場合、トップページを飛び越して下位のページが直接読まれることも普通にあると考えられる。よって、どこにもリンクが張られていないページや現在位置が不明瞭なタイトルなどは避けた方がよい。ページごとに「トップに戻る」などのリンクを作るとよいだろう。

また、検索サイトでは写真やイラストは対象とされない。今後は「とりあえずインターネットで検索しよう」という習慣が、各方面でますます一般化すると考えられる。そのような作業を前提にすれば、ホームページの閲覧者を増やすには、地名や種名、人名、遺跡名や民具名など具体的な単語を数多く掲載することが一つの手段ではなかろうか。そうすれば検索サイト経由でアクセスする利用者が多くなると見込めるからだ。ホームページを郷土学習の手引きと位置付けるとしても、地方博物館のページには、関連する情報について具体的な単語をできるだけ多く盛り込むことが求められるだろう。

ただし日本語の問題として、沢・澤など異体字は別の文字として区別されるため、どの表記でも検索される工夫が必要である。

3. 当面の課題

現在のホームページは、まだまだ不十分で満足の行く内容ではなく、多くの課題を抱えている。たとえば、インターネットは博物館の利用者増につながるのか、メールアドレスを公開した場合に質問や問い合わせに対応できるのかなど、現実の博物館との結びつきの面でも悩みは多い。

・出版物との関係

当館では、これまで出版物を活動の柱としてきた。販売物として「郷土学習シリーズ」(年1回発行全20集)、「特別展図録」(年1回発行現在20集)、「しれとこライブラリー」(年1回発行現在

1集)があり、「研究報告」(年1回発行現在20集)などを発行している。ホームページでは出版案内のページを設け、町教委発行の「発掘報告書」や郷土研究団体など関連の図書をあわせて紹介し、通信販売の案内を加えている。このうち「研究報告」は、全目次を掲載しており、論文名や著者名で検索できる。つまり検索サイトを使えば、著者名やタイトルに含まれる単語から探り当てることができる。

これら以外にも町民向けに「博物館のひろば」や「ふしぎ博物館」、博物館協力会会報「タンネウシ」という発行物があり、さらに古い広報紙連載記事のストックがある。この膨大な印刷物は、収蔵機関のほとんどが町内に限られるうえ既に残部も少なくなり、利用が困難な状態にある。これらもホームページに掲載すれば、過去の活字資産を有効利用できると考えている。

このことは印刷物の内容にも影響を与える。ホームページに掲載されるとなれば、検索されやすいタイトル名が与えられ、内容もインターネットを意識したものとなり、前後の印刷物との関連も考えて作成されるだろうから。

・特徴あるリンク集の作成

インターネットを利用するうえで便利なページに「リンク集」がある。これはホームページの名簿であるが、リンクが張ってあり、クリックひとつでそのページにアクセスできるというものである。インターネットの世界には、さまざまなリンク集が存在するが、地方博物館では地域や研究分野、活動内容に沿った特色ある内容のリンクページを用意したい。学芸員が研究の途上で収集したホームページのリンク集は、その分野を学習しようとする人にとって格好の手引きとなるだろう。

・博物館どうしでの作業分担

インターネットは、情報を一元管理して巨大なデータベースを構築するのではなく、それぞれのホームページにオリジナルな情報が蓄積され、全体として無数の情報が含まれるという構造になっている。そして検索サイトの存在によって、常に全体を対象にした情報収集が行われている。よって既存情報の再掲載は有意義なことではないだろう。

それよりも、もし可能であれば、博物館の間では作業分担を行い、お互い重複しない形でページをつくりたい。そうすれば、結果としてインター

ネットの世界に新たな情報を多量に付加することができるだろう。考古学、郷土史、自然解説などと分野ごとに役割分担をすれば、地方博物館の現実では困難な、自治体の区域を越えた仕事も可能だろう。

おわりに

インターネットはカラーの放送局。これはホームページを開設したときの印象である。ホームページの作成は「番組づくり」として考えたい。そして実際にページを運営するうちに、従来特徴とされてきた「即時性・速報性」に加え、「蓄積」にこそ博物館らしいホームページ展開があると実感するようになってきた。ここでは、一般的な情報よりも、地域的あるいは具体的なオリジナル情報にこそ価値がある。地方博物館にとってインターネットの世界は、新たなフィールドとして大きな可能性を秘めている。

ところで、文中にたびたび出てくる「検索サイ

ト」に取り上げられるには登録が必要である。一度登録してしまえば、あとは定期的に新しいページも自動的に付加される。検索サイトへの登録は住民登録のようなもので、これを怠るとインターネットの世界では存在しないも同然である。手続きがまだであれば、すぐに登録されることを強くお勧めする。

なお、小論や当館のホームページでお気づきの点やご質問があれば、メールなどで連絡いただければ幸いである。ホームページで回答したいと考えている。
(平成12年2月投稿)

筆者のメールアドレス<uni@ohotoku26.or.jp>

○知床博物館ホームページのアドレス

URL=<http://www.ohotoku26.or.jp/shari/museum/>
引用文献

平塚 明・柴 正博(2000) 植物園のウェブサイト。
博物館研究35巻, 1号, 18-22p

「博物館研究」誌に投稿のお奨め

博物館をとりまく問題もますます複雑化し多岐に亘っております。会員の皆様には日々運営に努力されておられることと存じます。当協会でも一層の誌面の充実に向けて参りますのでよろしくご協力を賜りますようお願いいたします。つきましては下記により奮って投稿いただきますようご案内いたします。またトピックス的な情報等についても規程に係わらずお知らせいただければ歓迎いたします。

博物館研究投稿規定

1. 投稿者は、本会会員（団体会員にあってはその構成員を含む）であること。
2. 投稿は、博物館に関する調査・研究、実践報告、外国情報等とする。
3. 原稿は、専門分野の異なる読者にも理解できるよう平易なものとする。
4. 原稿は未発表のものに限る。
5. 原稿は和文とする。（題名には英文を付記

すること）

6. 投稿原稿は、全て査読に付され、採否は、編集委員会において決定する。
7. 掲載された原稿は返却しない。
8. 原稿の長さは、一編につき図表・写真も含め、原則として5印刷頁（9,000字相当）以内とする。
9. 図表・写真は、本文と別紙とし、挿入箇所を本文原稿の欄外に記入する。図は、そのまま製版が可能なものとする。
10. 引用文献は、本文の末尾にまとめて、本誌名、著者名、発行年月日等を記すこと。

☆必要に応じ手直しをお願いすることもありますので、予め御承知ください。

☆原稿は横書き（22字）とし、できればワープロを使用し（MS-DOS変換されたもの）、フロッピーと印刷原稿をご提出下さい。掲載が決定した場合は、ご連絡いたします。